

☆ 小野運送店だより ☆
めぐみ

第61号（発行日2016年2月1日）
編集発行人 里吉正人
株式会社 小野運送店
〒140-0004
東京都品川区南品川4-2-33
TEL 03-3474-8778 FAX 03-3474-2838
<http://www.ono-unso.co.jp>

真田丸

最近 大河ドラマはほとんど見かけていませんでしたが
今回2回ほど みてその面白さにびっくりしました
主役は「倍返し」の半沢直樹「境 雅人」 菅野美穂をとっちゃった人 話題性も演技もうまい人です
さらに お父さん役の 草刈正雄さんの演技がすばらしく みてて唸りました

若い頃に感心していた 宇野重吉や 滝沢修も あのような深い演技でしたが
モデル出身のひとが なぜあんなにうまいの・・・とおもっていたら
JRの大人の休日クラブに彼のエッセイが載っていました

なんでも 彼は若い頃から真田太平記など 真田物に出演していて
親父の真田昌幸を知るほど その凄さに傾倒して時があれば研究していたそうな
それで 常々「こんな人ではなかったろうか」と考えながら演じているとのこと
役者魂に恐れ入ったしです

正月にかけて 今言うところの歴女（イタリアにお住まいの塩野七生さんが草分けかな）
のトーク番組があっちこちで放送されていて
歴史上の英雄にたいする見方がずいぶん男と違いますね
まず男として自分にマッチするかどうかという感覚がさきにあって
私から見ると実に興味深い そこで現在の研究からすると 大坂夏の陣直前でも
家康の寿命から計算すると 大坂方絶対有利
しかも 夏の陣ですら 大坂方が勝利するチャンスは多々あったそうで
結末は紙一重であったという解析でした

おそらく秀頼びいきの上今後のドラマを面白くみせるために企画されているとは思うのですが
冷静に考えると納得のいく話です
そこでは 大坂方の参謀がつくづく拙劣であったという解説になっています

危急の瀬戸際になると日本人は集団ヒステリーになって目的と手段が
逆転するという歴史家の言動が 興味深く心に残りました
今後真田丸がどんな展開になるかはドラマをみられたほうがよいのでこれ以上は説明しませんが。

思い当たるに 昭和史を代表する一級史料に「昭和天皇独白録」がありますが
そのなかで 対米戦争 神風特攻隊 大和単独出撃 について
なぜあんなことになってしまったかわからない と陛下は仰られています
おそらく当時の参謀本部についてもそのような状態ではなかったかとおもいます
陛下も秀頼公と同じ立場だったのでしょね
この辺のことは瀬島龍三さんなどにも生きておられるあいだに
聞いておけばよかったですのではないかとおもう次第です
実は 目的と手段が逆転した意見が横行することは 常々
過去に勤めていた会社によくみられた現象です
年頭所感に 「立ち居振る舞いの爽やかな社員になれ」と聞いたときには
こんな会社大丈夫だろうか と その場で感じたものでした

営利企業に限らずどの組織でも 投資判断 方針決定には そんな話がでてきます
年頭に お互い気をつけたほうがよいように思いますのであえて駄文を掲載します